

夏期全体合宿に参加して

渡 辺 彰 二

新人にとり団体生活、技術等の総合養成地として夏期全体合宿が北アルプス（七倉一三俣連華岳一槍ヶ岳一横尾一涸沢）に選ばれ7月17日～23日に実施された。

山というものに関してほとんど興味をもてなかつた私にとり、これぐらい観念を変転させた合宿はなく、又人間性つまり団体生活のむずかしさや、人格等についても非常に良い経験になつたと思つている。

7月17日午後6時11分多数の先輩方に見送られ大阪駅を「彩雲」で出発する。

乗車中私はこんな大装備をもち何とかバテないように安全に終える事ができるだろうかと考えると心細くなる。又登山者にとり最悪とも言える雨が夜半から降り出し、なお一層不安はつのるばかりであつた。しかし何とかなるだろう、何とかしてもらえらるだろう……？ と考え込む

7月18日明け方大町え着いたが依然として雨は降り続けている。そこからマイクロバスで七倉まで行き、8時強烈に重い山のようなキスリングをかつぎ雨具をつけて出発する。足場が軌道の上なのと雨が降りつけるので全く歩きにくく、非常に苦しい歩行となる。2時頃には何とか先輩方の「フアイト」「ガンバレ」の声で強引に歩かされ湯俣（テント場）に着く、雨の中をすぐにテント設営にかゝるが疲れきつているので全く辛い。

夕食後シュラフにもぐり、今日一日の事を考え全くいやになるが、もし明日雨が降っていれば前進不可能で停滞となるので、ただ雨が降るように祈っていたがいつの間にか寝てしまつていた……。

7月19日 雨が降り続いて増水が甚だしいので今日一日停滞し様子を見る事になり、それは新人にとって非常にうれしい事であつた。昼前に出発した偵

察隊の報告によると、水量が非常に多く吊橋は押し流され全く行動は不可能、依然として雨は降り続く……。

もし明日雨が降ればこの合宿は中止となると聞いて新人全員飛び上つて喜んだものだが、この合宿が終つた後考えると中止にならなくて全く良かったと思っている。又その時の一時的衝動にかきたてられた事を恥かしく思い深く反省している。

7月20日 昨日とはうって変つて天気一変し快晴となり、6時出発しかし道は大変な他の登山者のため全く行動は遅れ隊はバラバラになる。そのため先輩方の猛獣の雄叫びとも変らぬ「ガンバ」「ファイト」の聲が前方後方からひっきりなしに聞こえてくる。

雨のため流されかけたスクラツプ状の吊橋やこわれかけた道を緊張して通り、休憩までは何とかバテないようガンバラなければと必死であつた。それが積み重なり何とか行けたようなものだが、しかし三俣連華岳の尾根は全く強烈な登りで、その辺では皆半バテの状態であつたが、はるか遠方に見える槍ヶ岳の威容さは全く心やすめてくれるものがあつた。

新人には疲労のためか完全にバテてしまつたものが続出して来て、三俣連華岳（テント場）に着いたのは午後5時頃であつた。

そこからの景色は非常に素晴らしく、非常に爽快な気分であつたが、しかし疲労のためぐったりして体中のふしぶしが痛む。

7月21日 3時45分起床と同時に朝食、新人が余り早くバテるので荷物を二、三年の人にも分担してもらう、かうゆう事は今までのクラブでは全く異例であつたらしい。新人全員喜んで足どり軽く出発したが、私は今まで先輩方がやつてこられた事も満足に出来ないのかと思うと恥かしい気持になり、先輩に申し訳ない事だと思つている……もう少し新人全員が何とか頑張り協力してやつたら何とか出来たのにと今さらながら後悔の念を持っています。

もみ横沢岳通過中はげしく風雨に打たれ全く苦しい歩行であつたが、次第に雨は止み下方からガスが風に押し上げられてガスの切れ間から見える山々が何んと美しく雄大であつたこと、一瞬「来てよかつた」と思う。

長い長い槍の肩を必死の思いで、先輩に荷物を持つてもらっているのも絶対にバテてはいけないと自分自身に言い聞かせ頑張る。

12時30分頃槍のピークに登る、周囲はすごいガスで全々視界はきかなかつたが、しかし槍征服という感じだけで充分満足した。

それで元気よく槍沢を下つて行くが、ガレ場とハイペースには全くまいつてしまい横尾に着いた時には疲労困憊で精魂使い果した状態であつた、しかし今日で重いザツクを背負う事も終り明日は穂高で雪上訓練かと思うと全く何とも表現しにくいうれしさがこみ上げてくる。

7月22日 穂高でこの合宿中一番楽しい雪上訓練をする。

夕食後のキャンプファイヤーは全員非常になごやかな雰囲気で、合宿の苦しさも忘れてしまっているかのようだった.....。

7月23日、4時30分起床、5時一路上高地へ向つて出発。これでこの合宿は終つたのであるが、私はこの大自然に接し人間の微力さ、欠点を深く焼きつけられたが肉体的苦痛はその場だけのものであるのでできるだけ克服し、いかなる困難にも屈し難い人間に一步でも前進常に不可能と言う事は自分にはないのだと考えていきたいと思つている。この合宿は非常に私の人生に於て良い経験となつたと信じて疑わない。最後に先輩の御指導に深く感謝する次第であります。

中華料理	井	う	飲	喫茶と食堂	
	物	ど	物	ま	つ
		ん	一	ば	ば
			式		
				千里山大学前通り	
				TEL 382-0782	

